

平成 21 年 度  
事 業 報 告 書

平成 22 年 6 月 10 日

財団法人 国際科学技術財団

## 1. 2009年（第25回）日本国際賞関連事業

### (1) 第25回日本国際賞週間行事の実施（平成21年4月20日～4月25日）

4月23日、国立劇場において、天皇皇后両陛下御臨席のもと来賓多数を招待して、第25回日本国際賞の授賞式を挙行了た。

第25回の受賞者はデニス・メドウズ博士（アメリカ合衆国、自然と共生する持続可能な技術社会形成分野）、デビット・クール博士（アメリカ合衆国、医学・工学の融合における疾患への技術の展開分野）であった。

この授賞式を中心として4月20日から4月25日までを日本国際賞週間とし、各種行事を実施した。

### (2) 広報活動（平成21年4月21日～24日）

日本国際賞とその意義が広く世界から認められることを図り、日本国際賞週間中に合同記者会見、個別インタビュー等を実施し、報道関係機関に働きかけて積極的な広報活動を行った。

## 2. 2010年（第26回）日本国際賞関連事業

### (1) 2010年（第26回）日本国際賞受賞者の審査（平成20年12月～平成21年11月）

小宮山宏氏を委員長とする2010年（第26回）日本国際賞審査委員会の委員27名を委嘱し、内外から寄せられた受賞候補者推薦書548件に対する審査を依頼した。

同委員会において厳正に審査を行った結果、平成21年10月14日、2010年（第26回）日本国際賞受賞候補者として工業生産・生産技術分野から1名及び生物生産・生命環境分野から1名の計2名を推挙し、理事会はこれを受けて平成21年11月19日、評議員会の同意を得た上で、岩崎俊一博士（日本、工業生産・生産技術分野）、ピーター・ヴィトーセク博士（アメリカ合衆国、生物生産・生命環境分野）の2名を2010年（第26回）日本国際賞受賞者と決定した。

### (2) 2010年（第26回）日本国際賞受賞者決定の記者発表

平成22年1月15日、吉川理事長、小宮山審査委員長並びに前田・岩槻両部会長の出席のもと、ホテルニューオータニにて国内・国外のプレス関係者を招き2010年（第26回）日本国際賞受賞者発表を行った。

今回は、初めての試みとして両受賞者を会場に招いて受賞者を発表し、有意義な記者発表会となった。また、同時に主要メディアへの配信、財団ホームページでの広報公開など積極的に国内外の広報を行った。

## 3. 2011年（第27回）日本国際賞関連事業

### (1) 2011年（第27回）日本国際賞授賞対象分野の選定と決定（平成21年7月～10月）

委員長を矢崎義雄氏、副委員長を白井克彦氏とする委員11名から成る分野検討委員会を設置し、4ヶ月に亘る鋭意検討を経て、2011年（第27回）日本国際賞対象分野案を平成21年11月19日の理事会・評議員会に諮り、「情報・通信」と「生命科学・医学」の2分野とすることを正式に決定した。

- (2) 2011年(第27回)日本国際賞授賞対象分野発表(平成21年11月~12月)  
2011年(第27回)日本国際賞授賞対象分野について、財団ホームページにおいて公開した。
- (3) 2011年(第27回)日本国際賞受賞候補者推薦書の送付(平成21年11月)  
推薦依頼状13,000余通を平成22年2月末日の締切日として内外の科学者(推薦有資格者)に送付した。  
また、今回から推薦者の推薦書及び関連資料作成と送付の負担軽減を目的とした「日本国際賞推薦人専用WEB推薦システム」(JPNS)を開発し、稼働させた。  
なお、推薦の依頼と同時に、国際科学技術財団専門分野表記入依頼を併せて行った。

#### 4. 科学技術に関する調査研究

- (1) 分野別科学者等の調査(平成21年10月)  
2011年(第27回)日本国際賞授賞対象2分野に関わる内外の科学技術者リスト等について調査を行った。
- (2) 国際科学技術財団専門分野表データ整備(平成21年12月~平成22年2月)  
2011年(第27回)日本国際賞推薦依頼を行った国内外の推薦依頼者より、国際科学技術財団専門分野表記入回答のあった有識者のデータ整備を行った。

#### 5. 科学技術の普及啓発を図るための事業

- (1) 記念講演会の開催(平成21年4月21日)  
第25回受賞者による記念講演会を有楽町朝日ホールにおいて開催した。  
演題はデニス・メドウズ博士が“制約の中に生きることを学ぶ”、デビット・クール博士が“わが生涯の一断面：放射断層撮影法の50年”であった。
- (2) 学術懇談会の開催(平成21年4月22日)  
第25回受賞者を中心として、それぞれの分野で日本の第一線研究者に出席を依頼し、学術懇談会を開催した。(於：帝国ホテル)
- 1 自然と共生する持続可能な技術社会形成分野  
座長：茅 陽一 (独立行政法人地球環境産業技術研究機構副理事長)
  - 2 医学・工学の融合における疾患への技術の展開分野  
座長：米倉 義晴 (独立行政法人放射線医学総合研究所理事長)
- (3) 2009年ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)への学生派遣事業  
(平成21年12月4日~10日)  
スウェーデン青年科学者連盟より2009年ストックホルム国際青年科学セミナーへの参加依頼があり、第26回日本国際賞授賞対象分野を専攻する、所属大学の学長からの推薦を受けた学生について選考を行った結果、東京工業大学の関口悠、及び京都大学の吉川真由の2名を選定し、両名を派遣した。

(4) やさしい科学技術セミナーの開催（平成21年5月～平成22年3月）

一般の方を対象とした「やさしい科学技術セミナー」は下記の方々を講師として、9回開催した。

開催回	講	師
191回	近藤 一博	東京慈恵会医科大学 ウイルス学講座教授
192回	平山 朋子	同志社大学 理工学部 エネルギー機械工学科准教授
	長野 方星	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻講師
193回	梅津信二郎	(独) 理化学研究所 基幹研究所基礎科学特別研究員
194回	村岡 貴子	群馬大学大学院工学研究科助教
195回	矢野 創	(独) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学研究本部 (ISAS) 固体惑星科学研究系 助教
196回	二井 信行	東京電機大学フロンティア共同研究センター助教
197回	津留 美紀子	(独) 海洋研究開発機構極限環境生物圏研究センター 技術研究副主事
198回	重永 章	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部助教
199回	藤田 一郎	大阪大学大学院生命機能研究科教授

## 6. 科学技術研究奨励に関する事業

2010年研究助成事業の実施について（平成21年8月～平成21年12月）

研究助成選考委員会委員10名に、応募総数46件に対する選考を依頼した。

その結果に基づき、平成21年11月19日の理事会・評議員会において研究助成対象者19名を決定し、12月3日、ANAインターコンチネンタルホテル東京において贈呈式を行った。

研究助成対象者

[工業生産・生産技術]

荒木 稚子	埼玉大学大学院理工学研究科准教授
大竹 充	中央大学大学院理工学研究科博士課程後期課程 (D2) 在学中
生越 友樹	金沢大学理工研究域物質化学系助教
久保田 章亀	熊本大学大学院自然科学研究科産業創造工学専攻先端機械システム講座助教
田口 良広	慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科専任講師
田中 一生	京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻助教
比田井 洋史	東京工業大学大学院理工学研究科機械物理工学専攻助教
松尾 宏平	(独) 海上技術安全研究所構造・材料部門生産技術研究グループ研究員
松永 茂樹	東京大学大学院薬学系研究科有機合成化学教室講師

[生物生産・生命環境]

尾島 由紘	大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻助教
加藤 洋一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科助教

金田 正弘	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所高度繁殖技術研究チーム研究員
小出 陽平	(独) 国際農林水産業研究センター生物資源領域特別派遣研究員 (国際稲研究所)
田井中 一貴	京都大学エネルギー理工学研究所助教
橋本 佳延	兵庫県立人と自然の博物館研究員
藤田 雅紀	熊本大学大学院先導機構特定事業教員 (特任助教)
松島 良	岡山大学資源生物科学研究所助教
水本 祐之	高知大学農学部研究員
南 篤志	北海道大学大学院理学研究院助教

## 7. 財団の基盤強化に関する事業

- (1) 新公益法人への移行に関して、平成21年7月より新公益法人移行への準備委員会を設置し、10月までに4回の審議を行い、移行後の新公益法人における新定款案、機関設計、最初の評議員の選任方法等について平成21年11月19日理事会・評議員会への答申を行った。これを受けて12月24日に最初の評議員の選任の方法について主務官庁より認可を受けた。
- (2) 配当収入の大幅な減少と低金利で収入確保が厳しい状況下、経費支出の削減を行った。
- (3) 寄附募集活動を行い、パナソニック(株)から180万円の寄附受け入れを行った。

以上